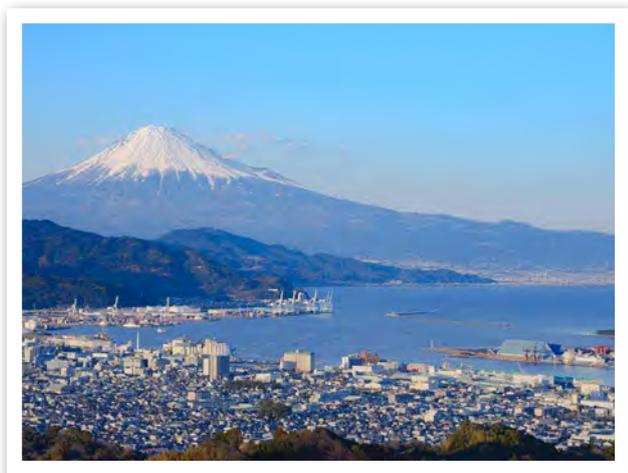


SHIZUOKA 12

県PTA新聞 第531号 2025



こども たちに 笑顔を

12月号 主な内容

- ◆令和7年度 ネット・スマホ安全標語コンクール 入賞作品決定
- ◆令和7年度 静岡県P連 年次表彰被表彰者
- ◆第13回「小さな親切」作文コンクール入賞者決定（「小さな親切」運動静岡県本部）
- ◆令和7年度 「小さな親切」あいさつ運動 協力校のとりくみ
松崎町立松崎中学校区 静岡市立長田南中学校区
川根本町町立三ツ星学園・光の森学園 浜松市立丸塚中学校区
- ◆東から西から 単P紹介
御殿場中学校（御殿場市） 賤機中学校（静岡市） 相生小学校（浜松市）
- ◆令和8年度 主な行事

連絡先

静岡県 PTA 連絡協議会
〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12
☎ 054(252)8223

開局時間

平日 10:00 ~ 17:00
※平日で閉局になる場合があります。
HPをご覧ください

静岡県 PTA 検索



令和7年度 ネット・スマホ 標語コンクール

入賞作品決定

本年度も各学校より合計11,346名もの応募をいただき、誠にありがとうございました。県P連では今後もネットやスマホを安心安全に活用するための意識を広く深めていただくことを目的に引き続き作品の募集を行ってまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

小学生の部	静岡県教育長賞	袋井市立袋井南小学校4年	金山 凜華	そうだんは機械じゃなくて 家族にね。
	静岡県校長会 会長賞	掛川市立曾我小学校5年	加藤 伊織	「あと10分」知らないうちに 1時間
	静岡県PTA連絡 協議会会長賞	森町立森小学校4年	山田 浩都	あなただれ? そんな人とは つながらない
	優秀賞	藤枝市立青島小学校3年	福本 結空	やめなさい そう言う大人は やめてるの
	優秀賞	島田市立六合小学校4年	熊田 峻	SNS書かない 押さない 広げない 困った時は かくさない
	優秀賞	浜松市立初生小学校6年	加藤 丈佳	ごはんです スマホをとじて いただきます
	優良賞	下田市立浜崎小学校6年	土屋 愛海	プライバシー 宝と思い あつかおう
	優良賞	東伊豆町立熱川小学校5年	太田 乃愛	その言葉 載せたらずっと 残る傷
	優良賞	藤枝市立大洲小学校4年	市川 昊青	朝起きて 見るのはスマホ? まず太陽
	優良賞	浜松市立気賀小学校4年	名倉 舜	スマホおき 家族で話そう 今日のこと
中学生の部	静岡県教育長賞	焼津市立小川中学校3年	加藤 結唯	あのねまま スマホじゃなくて わたしみて
	静岡県校長会 会長賞	藤枝市立葉梨中学校1年	尾崎 彩香	その言葉 誰が読んでも 同じ意味?
	静岡県PTA連絡 協議会会長賞	静岡大学教育学部附属浜松中学校2年	橋爪 美音	言葉の銃 画面で隠れた スナイパー
	優秀賞	沼津市立第三中学校3年	武田 真蔵	スマホ時間 減らして増やそう 家族の笑顔
	優秀賞	沼津市立門池中学校2年	佐藤いずみ	情報は 他人を思って 世に出そう
	優秀賞	掛川市立大須賀中学校3年	森下 結夏	SNS 時間制限 母の愛
	優良賞	裾野市立深良中学校1年	古郡 佑菜	「ちょっとくらい」 ネットはそれを 見のがさない
	優良賞	島田市立川根中学校1年	神尾 藍來	ネットでも 書いていいのは ありがとう
	優良賞	牧之原市立榛原中学校3年	植田 貴帆	スマホ依存 冷めたご飯は いつ食べる
	優良賞	磐田市立神明中学校1年	寺本 彩七	その発信 面白いのは 自分だけ
保護者・教職員の部	静岡県教育長賞	富士宮市立山宮小学校	近藤居代里	気付いてる? AIにはない 家族の愛
	静岡県校長会 会長賞	熱海市立第二小学校	八代 直也	見て聞いて 感じた知恵は 生きる糧
	静岡県PTA連絡 協議会会長賞	富士市立吉永第二小学校	伊藤みゆき	約束や マナーを守って スマイル スマホ
	優秀賞	函南町立東小学校	栗原 大輔	育てよう スマホ使って 自制心
	優秀賞	静岡市立長田西小学校	海瀬安紀子	気がつけば 余暇を乗っとる 我がスマホ
	優秀賞	藤枝市立西益津中学校	原木麻美子	スマホ閉じ 目を見て話す 心のつながり
	優良賞	伊東市立門野中学校	栗原 拓也	あなたの感性信じよう AIよりも優れてる
	優良賞	富士宮市立富士根南中学校	望月麻奈実	スマホ時間 減らしてつくろう 家族時間
	優良賞	藤枝市立青島小学校	佐藤みなみ	目の前の 人にも言える? その言葉
優良賞	御前崎市立浜岡中学校	奥柿 美穂	スマホ止め 楽しく食べる タごはん	

令和7年度
静岡県P連
年次表彰 被表彰者

令和7年度 静岡県 PTA 連絡協議会年次表彰被表彰者決定しました。
日頃より PTA 活動を通して児童生徒の健全育成や地域教育活動に尽力されている個人・団体の方々です。

表彰に際し、私たちは被表彰者の皆様に心より感謝の意を表します。皆さまの日々の活動は、

子どもたちが安心して学び健やかに成長できる環境づくりに欠かせないものであり、その献身的な取り組みは、多くの子どもたちや保護者、地域社会に希望と喜びをもたらしています。

団体表彰 特色のある活動を展開したPTA (36団体)

・ 東部地区	
賀茂地区	西伊豆町立賀茂小学校 PTA
賀茂地区	東伊豆町立稲取中学校 PTA
田方地区	函南町立桑村小学校 PTA
田方地区	伊豆の国市立大仁小学校 PTA
伊東市	伊東市立池小学校 PTA
熱海市	熱海市立熱海中学校 PTA
三島市	三島市立山田中学校 PTA
南駿地区	清水町立清水小学校 PTA
裾野市	裾野市立千福が丘小学校 PTA
沼津市	沼津市立開北小学校 PTA
御殿場市	御殿場市立南中学校 PTA
小山町	小山町立小山中学校 PTA
富士市	富士市立伝法小学校 PTA
富士宮市	富士宮市立上井出小学校 PTA
富士宮市	富士宮市立富士宮第四中学校 PTA
・ 中部地区	
静岡市	静岡市立中田小学校 PTA
静岡市	静岡市立清水船越小学校父母と教師の会
静岡市	静岡市立清水三保第一小学校父母と先生の会
静岡市	静岡市立城内中学校 PTA
静岡市	静岡市立蒲原中学校 PTA
焼津市	焼津市立大井川東小学校 PTA
藤枝市	藤枝市立岡部中学校 PTA
島田市	島田市立五和小学校 PTA
榛原地区	川根本町立三ツ星学園 PTA
小笠地区	掛川市立大坂小学校 PTA
小笠地区	菊川市立小笠東小学校 PTA
小笠地区	掛川市立桜が丘中学校 PTA
・ 西部地区	
磐田市	磐田東中学校・高等学校父母と教師の会 中学部
磐田市	磐田市立豊田北部小学校 PTA
袋井市	袋井市立今井小学校 PTA
浜松市	浜松市立相生小学校 PTA
浜松市	浜松市立追分小学校 PTA
浜松市	浜松市立河輪小学校 PTA
浜松市	浜松市立豊岡小学校 PTA
浜松市	浜松市立赤佐小学校 PTA
浜松市	浜松中部学園 PTA

個人表彰 PTA功労者表彰 (35名) (敬称略)

・ 東部地区		
賀茂地区	山本友也	西伊豆町立仁科小学校 PTA
賀茂地区	柏谷祐也	下田市立白浜小学校 PTA
田方地区	山本哲也	函南町立函南小学校 PTA
田方地区	堀江貴弘	伊豆市立天城中学校 PTA
伊東市	竹内こずえ	伊東市立池小学校 PTA
熱海市	廣瀬雄二	熱海市立多賀中学校 PTA
三島市	宮澤純子	三島市立山田中学校 PTA
南駿地区	坂本志朗	長泉町立北中学校 PTA
裾野市	渡部千華子	裾野市立深良中学校 PTA
沼津市	河口しのぶ	沼津市立第三小学校 PTA
沼津市	植松峻彦	沼津市立愛鷹小学校 PTA
沼津市	芹澤博海	沼津市立第五中学校 PTA
小山町	佐藤 吏	小山町立小山中学校 PTA
富士市	西川晃央	富士市立吉原第二中学校 PTA
富士市	佐藤祐樹	富士市立岳陽中学校 PTA
富士市	小池雅記	富士市立富士川第一中学校 PTA
富士宮市	保坂富男	富士宮市立富士宮第一中学校 PTA
富士宮市	武田明子	富士宮市立富士宮第四中学校 PTA
・ 中部地区		
静岡市	佐野立樹	静岡市立竜南小学校 PTA
静岡市	藤田三佐子	静岡市 PTA 連絡協議会
焼津市	小林千也杏	焼津市立大井川東小学校 PTA
藤枝市	黒田涼介	藤枝市立葉梨小学校 PTA
榛原地区	横山慎一郎	川根本町立三ツ星学園 PTA
小笠地区	佐藤有希	御前崎市立御前崎小学校 PTA
小笠地区	勝尾周仁	菊川市立菊川西中学校 PTA
小笠地区	平野映美	掛川市立上内田小学校 PTA
・ 西部地区		
磐田市	黒柳加代子	磐田市立福田中学校 PTA
磐田市	新井宏美	磐田市立豊田北部小学校 PTA
浜松市	早川大介	浜松市立泉居小学校 PTA
浜松市	平野圭吾	浜松市立広沢小学校 PTA
浜松市	高橋靖博	浜松市立和田小学校 PTA
浜松市	古川大輔	浜松市立入野中学校 PTA
浜松市	鳥居浩幸	浜松中部学園 PTA
浜松市	池谷隆利	浜松市立神久呂中学校 PTA
浜松市	磯部多秀	浜松市立開成中学 PTA

「小さな親切」運動 静岡県本部主催

作文コンクールの入賞者決定

作文コンクールは親切体験を作文に書くことで、子どもたちに人を思いやる心や言葉について、改めて考えてもらうことを目的に昭和 51 (1976) 年よりスタート
本年度は小中学生 2,158 名の応募がありました。

第 13 回 「小さな親切」 作文コンクール

入賞者一覧

	受賞	校名・学年	氏名	題名
小学生の部	静岡県知事賞	浜松市立気賀小学校 6年	石野綾乃	ドヤ顔リレー
	静岡県教育長賞	浜松市立中郡小学校 6年	早津爽汰	親切のレベルアップ
	「小さな親切」運動静岡県本部賞	浜松市立可美小学校 6年	荒川美和	私をかえた魔法の言葉
	金賞	浜松市立北浜南小学校 1年	鈴木咲久	カッコいい2ねんせいになりたいな
	金賞	静岡市立清水入江小学校 4年	高田美桜	動くことの大切さ
	金賞	浜松市立可美小学校 4年	中村ほの葉	やっと言えた言葉
	銀賞	浜松市立白脇小学校 6年	大谷紗葵	見えない親切の山
	銀賞	浜松市立雄踏小学校 5年	田野向日葵	小さな一歩、大きな成長
中学生の部	静岡県知事賞	静岡市立城内中学校 3年	青島和	日頃の親切に感謝を
	静岡県教育長賞	浜松市立日体中学校 3年	鈴木まり	「ありがとう」の力
	「小さな親切」運動静岡県本部賞	牧之原市立相良中学校 1年	四ノ宮瑞葵	「小さな心くぼりの継続」
	金賞	静岡市立城内中学校 3年	田原巧舵	小さな親切から
	金賞	静岡県立浜松西高等学校中等部 1年	花岡咲弥	親切は縁の下の力持ち
	金賞	静岡県立浜松西高等学校中等部 1年	山本名織	おかえりの贈り物
	銀賞	静岡市立清水飯田中学校 2年	石原侑依	勇気之道
	銀賞	静岡市立清水飯田中学校 2年	西ヶ谷莉園	小さな優しさ
	銀賞	静岡市立清水第七中学校 3年	林潤空	親切は勇気の裏返し

中学生の部 県知事賞



日頃の親切に感謝を
静岡市立城内中学校 三年 青島 和

「ミンミンミン。今年もセミの声によってより苦しく感じる夏の暑さが、私の体を疲れさせる。そんなとき、ふと思った。
「またトマトジュースが飲みたい」
小学生の頃の夏休み、私は毎年姉と妹と友達と一緒に書道教室へ通っていた。耐えられないほどの暑さだったにもかかわらず、私たちは速足で教室へ向かっていた。教室へ行くまでの道で、年配の方が経営している電気屋さんがあった。そのおじいさんはいつも、私たちに会うと団扇をくれた。そして、冷房のきいた店内に入らせてくれて、トマトジュースを飲ませてくれた。当時、私は酸味が強いトマトジュースが少し苦手だったけど、おじいさんお優しい気もちをありがたく頂戴した。その電気屋さんに飾られている書き初めの作品は、自分の孫が書いたものだとおじいさんは誇らしげに語っていた。それか

ら、涼ませてもらっている時間、いつもおじいさんという話をした。おじいさんのお孫さんの話や私たちの祖母の話、私たちが通っている書道教室の話、つい時間を忘れてしまうほど、たくさんのお話を話した。それは本当に楽しい時間だった。
中学生になり、勉強や部活で忙しく書道教室へ行くのがなくなり、おじいさんに会わない日が続いていた。久しぶりにおじいさんに会いたいと思い、冬休みに小学校の頃のメンバーで電気屋さんを訪れると、もうおじいさんの姿はなかった。おじいさんの妻であるおばさんの顔は前よりやつれていて、顔色が悪かった。
「おじいさんは、つい最近亡くなってしまったんだよ。あなたたちが来るたび、幸せそうにしていたよ。ありがとう。」
おばさんは目に涙を浮かべてそう言った。

私はおじいさんの優しい笑顔を思い出し、とても後悔した。もっとおじいさんに会いに行けばよかった。そして、おじいさんの優しさや私たちにしてくれた親切に感謝すればよかった。

誰かがしてくれる小さな親切は、当たり前にあるものではない。親切にする本人にとっては、当たり前に行えることかもしれない。受けとる人は、感謝をするべきではない。こんな大事なことに、私はおじいさんを失ってから気づいたのだ。苦手だったトマトジュースもおじいさんとの思い出深い味に変わった。
大切な人を失ってから、「もっとその人に感謝すればよかった」と後悔しないよう、日頃から自分にしてきた親切に当たり前に受け取らず、感謝の意を伝えていきたい。そして、おじいさんがしていたように誰かを思いやる気持ちを持つことを忘れず、小さな親切を当たり前にできる大人になりたい。

小学生の部 県知事賞



ドヤ顔リレー
浜松市立気賀小学校 六年 石野綾乃

「じいじ、また自まんしているよ」家族の誰かが言うと、みんなが笑う。もちろん本人も笑っている。けれど、その顔はやつぱりちよつと得意げだ。
私の祖父は、元・市役所職員。今は地域の「コミュニティセンター」の館長をしている。でも、ただの館長じゃない。春には捨てられそうだったひな人形を集めて「ひなまつりイベント」、夏はかき氷、冬はたい焼き。野菜や果物をもらえば「〇〇祭り」にしてしまう。広報で紹介して、野菜や果物をくれた農家さんにも感謝を届ける。草のびれば草刈り、木がじゃまならチェーンソーまで出動する。子どもたちと一緒に工作をしながらおやつを焼いて配る。もはや「館長」というより、まちな人気者で、ちよつと変わったヒーローだ。
そんな祖父の口ぐせは「あーまたいいこと思いついちゃった!」でも、いつもドヤ顔で自分から話すから、私は「すごいね」と素直に言えない。でも、本当はすつと思っていた。「かっこいいな」「私も。じいじみたいになりたいな」と。
ある日、学校で子ども食堂の話を聞いた私は、つい祖父に話してしまっただ。うちの町にもできたんだって。すると祖父の目がキラッと光った。「へえ、それ、いいな。あれをこうしたら、いや、できるかな。」それから数日後、祖父は本当に企画し、走り出していた。
「夏休みにやるから綾乃もおいで」
私はびっくりした。思いついただけでなく、本当にすぐに始めてしまうのだ。私は、そんな祖父がまがしくて、正直ちよつとだけくやしかった。私はまだ何もしていない。ただの「いいなあ」で終わっていた。
その日の帰り道、私は「ミを拾ってみた。誰かに言うほどでもない。気づく人もいない。だけど祖父のように「自分から働く」ことを、私もやってみようと思った。拾ったあの手のひらに、ちよつとだけ勇気が残った。それから私は、毎週土曜日の朝に近所を歩いて「ミ拾いをするようになった。いつもより少しだけ静かな時間。でも、道がきれいになるたびに、心の中で「ふん」と笑いたくなる。私もちよつとだけ、ドヤ顔したくなるのだ。祖父に「ミ拾い、やってみるんだ」と言ったら、「おお、いいじゃんーおれ、そういうの大好き!」と満面の笑みで言った。そのとき私は思った。「ああ、親切のリレーみたいだな」と。
しょう来の夢は、まだ決まっていなかった。でも私は、誰かの役に立って、その人が笑ってくれたらうれしい、と思うようになった。祖父がくれた親切のバトン、今度は私の番だ。私もいつか、誰かにドヤ顔でバトンを渡せるように走り出したい。

令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

みんなで咲かせるあいさつの花

松崎町立松崎小学校

挨拶について考えることを通して

松崎町立松崎中学校

松崎町立
松崎中学校区

みんなで咲かせるあじさいの花

松崎町立松崎小学校 教諭 武内 甫 擁



毎朝企画委員が昇降口であいさつ運動

松崎町立松崎小学校では、地域の教育活動の一環として、「明るくあいさつ」の実践運動に力を入れています。この取組は、21世紀松崎町の三つの実践運動のひとつとして位置づけられ、子供たちの豊かな人間性を形成するためのコミュニケーション能力の育成を目的としています。

年間を通して、企画委員会（高学年）が中心となって、毎朝のあいさつ運動に取り組み、学校全体の雰囲気明るくすることを目指しています。活動のテーマを「みんなで咲かせるあいさつの花」笑顔の栄養で成長させよう」とし、昇降口付近で元気よくあいさつを交わすことを通じて、子供たち同士の心の交流が深まり、礼儀正しさや思いやりの心が育まれてきています。

また、企画委員会の児童が創意工夫を凝らし、「相手に聞こえる声であいさつ

をする」「大きな声ではっきりとあいさつをする」といったポイントを記したポスターを掲示し、子供たちへの意識付けを行っています。

さらに、全校児童の生活目標として「大きな声で元気にあいさつしよう」を設定し、登下校時や学校内外のさまざまな場面で相手に気持ちが伝わるあいさつを心掛ける指導も実施しています。特に、バスの中や通学路など、日常のさまざまな場面でのあいさつの大切さを伝え、子供たちの社会性やマナーの向上を促しています。

この取組は、子供たちの人間関係を豊かにし、地域社会とのつながりを深めることにも寄与しています。松崎小学校では、今後も継続的にあいさつ運動を推進し、子供たち一人一人の心豊かな成長を支援していきます。



大きな声で元気にあいさつしよう

挨拶について考える時間を通じて

松崎町立松崎中学校 教諭 山浦 敬介



生徒総会で挨拶について意見を交わしました

令和7年度松崎中学校前期生徒会は、活動方針「友情・全力・発言」と、本校の伝統である三本柱「合唱・清掃・挨拶」を軸に活動しました。生徒会執行部は、挨拶を本校の強みにしたいと考え、生徒総会の場で、挨拶の在り方について全校生徒で意見を交わすことを計画しました。生徒はまず学級で話し合い、意見をまとめ、生徒総会に臨みました。各学年それぞれの立場や考え方をもち、多くの生徒が積極的に討論に参加しました。挨拶はコミュニケーションの基本であるため、討論の結果、学年や関係性を問わず、誰とでも挨拶できるようにすることを目指すことになりました。

その後、生徒会執行部は、目標を達成するために、全学年混合の小集団を作った挨拶運動を行うことを提案、実行しました。活動を通じて、これまで話したことのない生徒同士の交流や、朝の気持ち

の良い挨拶が増えたように感じます。挨拶について考えることで、生徒会執行部活動方針の一つである「友情」を、学年という横のつながりだけでなく、学年をまたいだ縦の繋がりにしていくという意図も感じられました。「自分たちの学年から挨拶の伝統を創ろう」という声が上がった学年や、独自の企画として、誰にでも気持ち良く挨拶することを促すポスターを作成した学年もありました。何気なく行っている挨拶を見直す良い機会になったように感じます。

様々な生徒の変化が見られ、挨拶すること自体が目標ではなく、挨拶について考えることに意味があるということを感じました。今後さらに挨拶の輪が広がり、それに伴って生徒一人ひとりの成長やより活気溢れる松崎中学校へと発展していくことを期待しています。



全学年混合の小集団による挨拶運動

令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

目指せ！あいさつ名人

川根本町立三ツ星学園

あいさつは 笑顔咲かせる 花になる

川根本町立光の森学園

川根本町

目指せ！あいさつ名人

川根本町立三ツ星学園 教頭 鈴木 木 高 広

三ツ星学園。この名前を聞いて何を想像しますか？私立の学校と思われるかもしれませんが、開校二年目の町立の義務教育学校です。一年生から九年生の179人が在籍している山間部の学校です。

まず、あいさつ運動協力校となるにあたって、PTA総会や学校たよりで保護者にも周知することにより、学校全体であいさつ運動を行うことを確認しました。

具体的に本校があいさつ運動に関して実践していることは三つあります。

一点目は「あいさつ名人」の取組です。この取組は、学期末に全児童生徒が、あいさつ大きな声で自らしている人を推薦し、票が多い児童生徒を表彰するものです。一学期に続き、二学期も票が多かった児童生徒は「あいさつ達人」に、三学期も票が多かった児童生徒は「あいさつ王」とレベルが上がっていきます。「名人」「達人」「王」に選ばれた児童生徒は終業式で紹介され、学校たよりにも名前を紹介しています。

二点目は、この学校でも行っていると思いますが、生徒会活動でのあいさつの向上策です。本校では、生徒会主体の「ハイタッチあいさつ」の取組を行いました。生徒会がハイタッチあいさつの動画を作り、昼のテレビ放送で啓発しました。子供たちはハイタッチあいさつに興味を示し、あいさつが盛り上がりました。しかし、一時的な盛り上がりで終わってしまったのが残念でした。先日、生徒会長選挙がありました。どの候補者もあいさつについて公約に掲げていました。生徒会ではいろいろな方法で、児童生徒の興味を刺激しながら、あいさつ運動に取り組んでいけるよう支援していきたいと思っています。

三点目は、職員による登校見守りです。昇降口にボランティアで職員が立ち、あいさつをし

ながら子供たちを迎えます。あいさつができていないと感じたときは、職員会議で共有し、対策を協議することで、大きな効果が出ました。全校で同じ歩調で同じことを指導することは大きな効果が出ることを改めて実感できました。中学校勤務が長い職員は一、四年生に対して、視線を低くして目を合わせてあいさつするなどの工夫をしています。

あいさつ運動に取り組むことで、元気にあいさつをする児童生徒が多くなりました。中には、朝と帰りに職員室に顔を出し、「おはようございます」「たようなら」と元気にあいさつをする児童も見られるようになりました。一方で地域で進んであいさつができる児童生徒が多くないことが保護者の学校評価であげられました。高齢化が進む川根本町では、子供たちの元気が何よりの町の活性化の起爆剤です。学校の皆さんから多大な援助を受けています。子供の元気で心のこもったあいさつで恩返しができるよう努めたいと思います。



あいさつは 笑顔咲かせる 花になる

川根本町立光の森学園 教諭 青山 円 香

令和7年度松崎中学校前期生徒会は、活動方針「友情・全力・発言」と、本校の伝統である三本柱「合唱・清掃・挨拶」を軸に活動しました。生徒会執行部は、挨拶を本校の強みにしたいと考え、生徒総会の場で、挨拶の在り方について全校生徒で意見を交わすことを計画しました。生徒はまず学級で話し合い、意見をまとめ、生徒総会に臨みました。各学年それぞれの立場や考え方をもち、多くの生徒が積極的に討論に参加しました。挨拶はコミュニケーションの基本であるため、討論の結果、学年や関係性を問わず、誰とでも挨拶できるようにすることを目指すことになりました。

その後、生徒会執行部は、目標を達成するために、全学年混合の小集団を作った挨拶運動を行うことを提案、実行しました。活動を通じて、これまで話したことのない生徒同士の交流や、朝の気持ちの良い挨拶が増えたように感じます。挨拶について考えることで、生徒会執行部活動方針の一つである「友情」を、学年という横のつながりだけでなく、学年をまたいだ縦の繋がりにしていくという意図も感じられました。「自分たちの学年から挨拶の伝統を創ろう」という声が上がった学年や、独自の企画として、誰にでも気持ち良く挨拶することを促すポスターを作成した学年もありました。何気なく行っている挨拶を見直す良い機会になったように感じます。

様々な生徒の変化が見られ、挨拶すること自体が目標ではなく、挨拶について考えることに意味があるということを感じました。今後さらに挨拶の輪が広

がり、それに伴って生徒一人ひとりの成長やより活気溢れる松崎中学校へと発展していくことを期待しています。



令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

あいさつで つながる心 笑顔の輪
あいさつで 笑顔広がる まちづくり

静岡市立長田南中学校
浜松市立丸塚中学校

静岡市立
長田南中学校区

静岡市立長田南中学校

教頭 伊藤 心

心

あせしで つながる心 笑顔の輪

本中学校区は地域ぐるみで子どもを育てていくというおたたかいムードがあります。自治会と学校との連携、福祉協議会によるボランティア活動が活発に行われる中、地域にある長田南中学校、長田東小学校、川原小学校の3校の子どもたちはすくすくと成長しています。

【あいさつの意味を考えてみる取り組み】

各小学校では「あいさつ」する意味や必要性についての考えを話し合う授業が行われました。これは「なんであいさつしなきゃいけないの?」「一人の子どものつぶやきから、始まったんです。授業では「あいさつを交わす」という心がほっとする」「あいさつが自然に行えるような人間関係が居心地がよい」「礼儀として必要」となどの意見が出され、発表する姿も、それを聞き姿も真剣そのものでした。あいさつをする理由を考えたこの授業は、次の日から、子どもの主体的な行動に変わりました。「あいさつをしても返してくれない。」「不満を口にしてた子どもが、「あいさつを返してくれなくても、(あいさつ)をしてくれる、自分が気持ちいいから、それでいい。」「という考えに変わったのは、その顕著な例だと言えます。

中学校では、今年度11月26日、「全校道徳とPTA活動をコラボさせた企画「あいさつ講演会」を開催しました。ことばを大事にされて、各方面でたくさんの人たちと対面された経験をもつ方の代表として、ラジオパーソナリティの高橋正純氏を学校にお招きし、「あいさつ」みんなにHAPPYになれる」というテーマで講演いただきました。会場には、中学生だけでなく、その保護者、地域の方が参加し、会場のみながら、「あいさつっていいものだ!」という認識を得る機会となりました。

【あいさつ運動を地域に広げるの難し】

本あいさつ運動の目的は、「心の通う社会の実現を図る」とあります。この運動を推進する上での難しさを感じたのは、「子どもたちにあいさつしても、警戒して、あいさつを返してくれない。」「という三校が集まって開催された、「ミニミニティー」スクール会議内の発言でした。地域の方と子どもたちは、見ず知らずという訳ではないけれど、不審者による声掛け事案と思ってしまう子どもたちに対して、どうしたらよいか、

浜松市立
丸塚中学校区

浜松市立丸塚中学校

教諭 平野 大輔

あせしで 笑顔広がる まちづくり

丸塚中学校区におけるあいさつ運動は、教職員と地域の皆様が協力し、児童・生徒の健全な育成を目指して展開されています。現在、この取組は地域社会との連携を深めることで、学校の環境整備と児童・生徒の意識啓発に大きな成果を上げています。そこで、青少年健全育成会やいい声掛けデーといった活動を通しての取組の現状について述べます。

【運動の成果と学校内での現状】

本校のあいさつ運動は、主に教職員や地域の方が中心となり、登校時の校門等で実施されています。教職員があいさつの模範を示すことで、児童・生徒が自然とこれに倣う環境を作り出しています。また、教職員や地域の方々からの声掛けにより、学校の門をくぐる際の雰囲気や格段に明るくなりました。児童・生徒の中には、「登校時に声をかけられると安心する」という声もあり、心の安定にも繋がっていることが伺えます。

【地域連携による取組の深化】

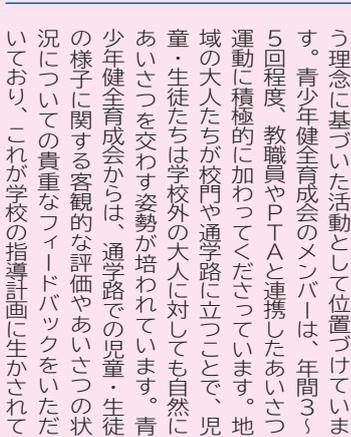
丸塚中学校区のあいさつ運動の最大の強みは、地域全体を巻き込んだ、温かい活動を展開している点です。丸塚中学校区では、地域の青少年健全育成会やPTAと密接に連携し、あいさつ運動を「地域の子供を地域で育てる」という理念に基づいた活動として位置づけています。青少年健全育成会のメンバーは、年間3〜5回程度、教職員やPTAと連携したあいさつ運動に積極的に加わってくださっています。地域の大人たちが校門や通学路に立つことで、児童・生徒たちは学校外の大人に対しても自然にあいさつを交わす姿勢が培われています。青少年健全育成会からは、通学路での児童・生徒の様子に関する客観的な評価やあいさつの状況についての貴重なフィードバックをいただいております。これが学校の指導計画に生かされて

います。また、年間3回行われる「いい声掛けデー」は、青少年健全育成会のメンバーを中心に教職員も参加して行われる活動です。この取組は、活動を通じて「あいさつ」だけでなく、「相手手を気遣う一言」や「感謝の気持ちを伝えること」の重要性が教職員と地域の間で共有され、児童・生徒への温かい眼差しが増す結果となっています。

【今後の展望と課題】

現在の取組は、地域との連携という点で大きな成果を上げていますが、これを真の学校文化とするためには、次のような課題がみられます。
・あいさつ運動を、教職員や地域の役割として終わらせず、児童・生徒一人一人が「あいさつは自分の役割だ」と感じ、自発的に取り組む姿勢をどのように育むか
・登校時だけでなく、下校時や学校内で、教職員・地域の方々が活動できない時間帯や場所でも、児童・生徒が自発的にあいさつを交わせる環境づくりの構築

今後は「いい声掛けデー」を通じて、あいさつの意義を児童・生徒に繰り返し伝え、児童・生徒が自らあいさつを実践したくなるような雰囲気づくりを強化してまいります。本校のあいさつ運動が、地域社会の温かい協力のもと、児童・生徒たちの人間性を育むための重要な手段であることを願っています。



東から西から 県P紹介

- ・御殿場市立御殿場中学校 PTA
- ・静岡市立賤機中学校 PTA
- ・浜松市立相生小学校 PTA

PTAが子どもたちのためにできること

御殿場市立御殿場中学校

令和七年度 PTA会長 北村 和之

御殿場市は、今年で市制施行70周年を迎えましたが、御殿場中学校の歴史は、それよりもっと古く、昭和22年の創立以来、地域と共に歩み続けてきた伝統ある学校です。全校生徒654人が在籍し、1学年が6〜7クラスある市内で一番大規模な学校で、「猛志篤行」の校訓のもと、高い志と誠実な行動を大切にしています。

今年度の特徴ある学校行事として、2年生は学校で宿泊行事を行い、活動の一環として避難所体験を実施しました。市内に、3つの陸上自衛隊の駐屯地を要するところから、自衛隊のまちとしての特色もあり、自衛隊や地元消防団女性部の支援のもと、道路のマンホールから取水する入浴支援や炊き出しによる炊事支援など、地域の防災リーダーの皆様とともに、まさに子どもたちは、生きる力を実感する御殿場らしい貴重な学びとなりました。



こうした中で、PTAは、学校と家庭との緊密な連携を図るための組織としてあります。御殿場中学校PTAは、6名の役員で構成される理事会をはじめ、施設管理課や校外生活部、成人教育部、家庭教育学級などの専門部で、学年ごと配置される学年部会など、多くの保護者の協力により運営されております。

具体的には、施設管理課を中心に子どもと保護者による奉仕作業や、校外生活部による朝の通学や校外活動での見守り、成人教育部では、PTA新聞の編集・発行をしています。また、学年部会では、学校行事が円滑に運営されるようサポートし、学校との連携を図っています。

中でも特に積極的に活動しているのが、家庭教育学級の「やまなみ学級」です。生涯学習の一環

として、「家庭教育の充実」を図り、学校や地域と連携し、それぞれが持つ教育機能を発揮することで、子供たちの健全な成長を目指しています。

活動内容は、レクリエーション活動や高校見学など、様々な学習会を通じて、新しい時代の家庭教育のあるべき方向や家庭が果たす役割などを確認することを活動の柱としています。

さらに、子どもたちがホッとできる居場所を作るため、年間のお花当番を決め、校内の廊下やトイレなど数カ所へ、花瓶にさした花とともに愛情のこもったメッセージフラッグを配置しています。この歴史は古く、20年以上受け継がれています。また、本校が令和5年度から静岡県教育委員会の研究指定を受け、不登校やいじめ等の未然防止を目的とする「居心地のよい学校づくり」に取り組んでいることから、学校とPTAが同じ目標を持ち、学校が子どもたちにとって過ぎしやすい環境になるよう取組を進めております。

昨今の複雑化する社会においては、日常生活も多様化しており、子どもたちにとってはますます負担が増しております。PTAとしましては、中学校生活の限られた時間が子どもたちにとって、良い思い出になるよう、これからも学校とPTAが一層連携してまいりたいと思います。

最後に、こうして学校と子どもたちに関われる貴重な時間をいただいていることに感謝し、これからもPTA活動に携わってきたいと思っております。



地域との連携を大切にしている第4ブロック

静岡市立賤機中学校

令和七年度 第4ブロック理事 小林 千晶

私たち第4ブロックは井川小中学校・梅ヶ島小中学校・玉川小中学校・大河内小中学校・松野小学校・賤機北小学校・賤機中学校・賤機南小学校・賤機中学校の9校から構成されています。地域としてはオクシズと呼ばれる山間地が多く、端から端へ移動するのに車で2時間以上かかるとても広い範囲をカバーしています。山間地では地域との関係が密着しており、「コミュニケーション」が始まる以前から「学校」と「PTA」、「地域」がとても良い関係を築いている地区が多くあります。

そんな第4ブロックですが、少子化の影響を大きく受けており年々子ども人数が減り、数年前から危機感を持った統合に向けた計画が複数進んでいます。中でも梅ヶ島小中学校は来年度から大河内小中学校と統合することがすでに決定しており、学校のみならずPTA同士の話し合いも順調に進んでいると聞いております。それぞれの学校の長い歴史と地域との深い関わり、そして何より子どもたちのこれからのことを考えると、統合するしないの決断は大変難しい選択になります。

それでも候補地のPTAを中心に、学校と地域の皆さんが一丸となって、子どもたちの未来を第一に考えて行動されている姿勢に、ただただ敬服します。いずれの決断も地区の輝かしい未来に向けての一步となる信じています。

そのような状況下で年に一度ブロック活動を行うにあたり、第4ブロックでは「子どもが楽しめる・子どもを中心に考えたイベント」を心がけて開催し、各学校との交流を図っています。今年度は、少し真面目なイベントを...というところで『親子で学ぶ小中学生のための防災セミナー』を9月13日に賤機中学校

で開催しました。あいにくの大雨でしたが災害は天気を選ばない！を合言葉に単刀会長さんと千代田消防局の皆さんをはじめ、地域の防災組織である「しずなん防災女子部」の皆さんにもお手伝いいただきました。アイラップでの防災食作り(ご飯と蒸しパン)、煙体験・水消火器体験・AED体験・簡易トイレ体験など盛りだくさんの内容でしたが、初めての体験にドキドキしながらチャレンジする子ども姿が印象に残りました。また、地域の防災組織に参加いただくことで訓練の一環にもなりました。終了後のアンケートでも「家庭での防災意識の向上に繋がった」と答えた方が92%と非常に高く、とてもやりがいを感じる活動でした。

南海トラフ大地震だけでなく、線状降水帯による被害も多くあり、今年度は牧之原市などで竜巻による重大な被害が出るなど、改めて自然の怖さを感じました。第4ブロックは山間地特有の土砂崩れによる孤立や水害なども考えられます。いざという時のために各家庭で備えるのももちろんですが、日頃から「学校」と「PTA」、「地域」が連携して信頼関係を築き、有事など大変なときにはお互いに助け合うことが出来るように、これからも活動を続けていきたいと思っております。



見せよう！大人の背中

浜松市立相生小学校

令和六年度 PTA会長 森 田 賢 児

「見せよう！大人の背中」に基づき、役員一同で様々な事業を実施いたしました。まず、このスローガンに込めた思いですが、一言で言えば、教育における保護者の主体性を再確認することにありました。教育基本法でも、教育の第一義的な責任を有するのは保護者とされていますが、それと裏腹に、何が問題があると、学校のせい、先生のせいにする風潮を憂慮しておりました。また、浜松市では、学校・家庭・地域が連携する学校づくりを推進していますが、これも保護者の主体性を欠いては、その意義を成すことはありません。私達、保護者が教育の当事者であることを再確認し、社会教育関係団体として主体的な活動をしていく意気込みを現したものです。もっとも、現在のPTAは、大人の消極的な論理で語られることも少なくありません。「面倒くさい」とか「役を引き受けたくない」と言った嫌厭する声も聞こえてきますが、あくまで児童生徒の為に活動が目的である、その原点に帰することが重要であります。

さて、この思いを具現化すべく、早々に導入したのが相生小ウエル・ビーイングでした。端的に「幸福度」を表すウエル・ビーイングですが、我々はPTA事業を実施する度に、児童や保護者に対しアンケート形式で、その満足度を聴取していきました。結果は驚くことに、満足度として、百点中九十一、五点上りました。これが、事業のみならずPTAの存在意義を見える化することにつながりました。また役員を意識向上にも直結いたしました。確かに、企画から準備、事業実施、事後処理まで大変だけれども「子ども達が喜んでくれるなら」と前向きに取り組んでくれるようになりまし。さらに推進したのが、地域の一体感を醸成する事業です。本校では従前から、「親子奉仕作業」という事業があります。その名の通り、休日に親子で学校の清掃

活動を行うものです。児童にとっては「自分たちの学校を」保護者にとっては「我が子の通う学校を」美化することに努めるものですが、ここにもう一層、地域の人を加えました。具体的には地元自治会長や学校運営協議会委員、学校ボランティアの皆様です。地域の人にとっても自分たちの地域の学校」として関わってもらいたいことを目的としました。

もっとも、地域の関りが深い当該校区ですが、近年全国的に言われている地域コミュニティの衰退については、決して例外視できない状況にもあります。これらは一見すると、私達の生活に与える影響は小さいように思えますが、伝統文化の継承が困難になることや、災害時の地域防災機能の低下また犯罪や事故に対する地域防犯機能の低下など、帰するところは私達の子育て環境にあります。従って、学校を児童生徒の学習の場だけに留めず、地域コミュニティの核として機能を充実させていくことも重要です。その一端を担ったのが、重点事業として位置付けた「親子奉仕作業」地域連携版」でした。

種々取り組みを紹介させていただきましたが、総じて思うのは、良き子育て環境とは誰かから与えられるものではなく、私達一人一人が主体的に創っていくものだということです。PTA活動はそれを体現できる優位性を有しています。子ども達に模範を求めめる前に、我々大人が前向きに教育活動に参画することで、その背中を見せて行くことではありませんか。



令和8年度 行事予定

実施予定日	内 容
令和8年4月22日(水)	会計監査
5月22日(金)	R7 第6回三役会・理事会 令和8年度定期総会
6月12日(金)	第1回三役会・理事会
6月19日(金)	第1回事務局長会議
7月3日(金)	広報紙コンクール審査会 第1回地区P連会長等研修会
8月7日(金)	第2回三役会・理事会
10月2日(金)	標語コンクール審査会 第3回三役会・理事会
11月28日(土)	静岡県PTA研究大会浜松大会
12月12日(土)	第4回三役会・理事会 第2回地区P連会長等研修会
令和9年1月15日(金)	第2回事務局長会議
3月5日(金)	第5回三役会・理事会
4月22日(木)	会計監査
5月21日(金)	第6回三役会・理事会 令和9年度 定期総会

予告

第71回
静岡県PTA研究大会
浜松大会

開催期日 令和8年11月28日(土) 午後

会 場 アクトシティ浜松 大ホール

内 容 (予定)

- ①開会式
- ②アトラクション
- ③研究実験委嘱 PTA 発表
- ④記念講演
- ⑤閉会式

